S. MASA: A Survey on Utilization of Ward Gymnasia

東京都区営体育館の利用状況調査

日本体育大学 正 貞 彦

I. 序—研究の目的

体育館を分類すると、学校体育館、企業体の体育館、営利を目的とした体育館、そして公共の体育館に分けられることは周知の通りである。

その中で、公共の体育館は主として税金によつて建設されたものであり、広く一般国民に開放されたものであるから社会体育上そのもつ役割は大きい。

しかし、この公共体育館にも国立・都道府県立・市町村立のものがあつて、各々の存在価値もまた異つている。概して国や都道府県立の体育館は規模も大きく、主として、国際大会や全国大会、県大会等の競技会場としての性格を多分に示している現状である。

これに対し、市町村立の体育館はそれらの地域の人々を対象にしているものであり、その目的は地域人の健康保持・体力の向上を図ることを第1としているのが普通である。このことは、都内の6つの区営体育館の設置目的にあるように、どこも「社会体育の振興を図り、区民の健康保持、体位向上を図る」ということを主な目的として、各区の体育館使用条例に示していることから明らかである。いうまでもなく特定の団体のみが使用したり、興業的・貸体育館的に運営されるべき性質のものではないのである。

ところで、以上のように地域の人々のために存在しているべきこれら体育館は、現実には

はいつたい、いかにその地域の人々の社会体育活動のために貢献しているのだろうか。

この実態を正確に知ることは、正しい健全な社会体育発展のためきわめて意義の深いことと思われる。

この種の過去の調査報告としては、設置の状況についての一般的な調査や(註1)、体育館管理者の簡単な概況報告等はあるが(註2)、その利用状況の詳細な調査については国民体育館(国立:東京神田)についての竹之下の報告(註3)があるぐらいである。竹之下の場合はかなり具体的に調査されているが、今から8年ほど前のものであつて、現在の状況とはまた変つてきているものと思われる。

そこで本研究は、地域の公共体育館が、いかに、いかなる目的で、いかなる人々に利用されているか、その現状をとらえ問題点を明らかにし、社会体育的な対策の基礎資料を得ることを目的として、現在設置されている都

註1) 文部省・日本体育協会: 社会体育施設報告書, 1958年

国民体育館運営審議会: 「わが国における公共体育館の現状」, 体育の科学, 1955年11月号

註2) 雑誌「新体育」(特集「体育施設・用具」), 1959年3月号

雑誌「学校体育」(特集「体育施設の問題」), 1962年8月号

註3) 竹之下休蔵: 「公共体育館はどのように利用されているか」, 体育の科学, 1955年12月号

第1表 各 体 育 館 の 概 略

昭和33年1月現在

設置年月	新宿体育館	品川体育館	足立体育館	杉並高円寺体育館	大田梅屋敷体育館	台東体育館
昭和33年3月	昭和33年11月	昭和33年5月	昭和33年3月	昭和33年4月	昭和33年3月	
位置	西大久保4～5丁目	豊町2～1128	千住栄町59	高円寺2～374	東蒲田1～10	浅草隅田公園
交通	国電 新大久保駅下車15分	大井町線 戸越公園駅下車5分	東武線 梅島駅下車15分	国電 高円寺駅下車15分	京浜東北線 梅屋敷駅下車5分	東武線 浅草駅下車15分
所管	財政課管財係	社会教育課体育係	社会教育課体育係	社会教育課体育係	土木課公園係	(財団法人)
競技場の 広さ	1033m ²	854m ²	865m ²	607m ²	390m ²	1,339m ²
観客席 (2, 3階)	733名	600名	600名	200名	0名	2,340名
コート面数 (備付器具)	体操競技一式 バレーボール2面 バスケットボール1面 バドミントン4面 卓球8面 テニス他	体操競技一式 バレーボール2面 バスケットボール1面 バドミントン4面 卓球8面 剣道防具他	体操競技一式 バレーボール2面 バスケットボール1面 バドミントン4面 卓球8面 重量挙げ用具他	バレーボール1面 バスケットボール1面 バドミントン3面 卓球6面 柔道32枚	バドミントン2面 卓球4面	体操競技一式2面 バレーボール2面 バスケットボール2面 バドミントン8面 卓球12面 重量挙げ用具その他
附属施設	柔・剣道場(共)2面 集客室、図書室、 集客室、広接室、 集客室、更衣室、 選手控室、更衣室、 シャワー室、その他	柔・剣道場各1面 選手控室、更衣室、 シャワー室、その他	控室兼更衣室、放送 室、シャワー室、宿 直室、その他	更衣室、シャワー室、 便所	なし ただし公園内に弓道 場があり、足洗場や 便所はある。	会議室2、医務室、 食堂、更衣室、浴室、 選手控室、シャワー 室、その他
昭和37年度算 子	5,433,333円	2,433,333円	1,980,798円	1,200,576円	2,814,334円	14,147,100円
使用料金	午前 6,000円 午後 8,000円 夜間 12,000円 全日 22,000円	1,000円 1,500円 2,000円 3,000円	1,000円 1,500円 3,000円 4,400円	○備付器具を使う場 合、バレー、バス ケ、バ2時間で屋 外、夜間400 円 ○器具を使わない場 合、2時間で屋 外、夜間300 円	300円 500円 800円	6,000円 9,000円 13,000円 23,000円
(平日)						

* 新宿体育館の使用料金は一般貸切の場合、区民が責任者(率)のもとでグループで使用するときは無料である。
なお、各体育館の使用料金は、興業を目的としていないで、スポーツ種目に使用する場合のものである。

内の区営体育館について調査を試みるものである。

II. 調査方法

1. 調査対象

東京都内の下記6区の区営体育館を対象とする。

(1) 新宿体育館	(2) 品川体育館
(3) 足立体育館	(4) 杉並
高円寺体育館
(5) 大田
梅屋敷体育館	(6) 台東体育館 (註4)

以上の区営体育館の他に、昭和37年9月杉並にもう一つ新設されたが、本調査では除外した。なお、上記各体育館の概略は第1表に示す通りである。

2. 調査項目

- (1) 利用時間について
- (2) 利用内容(種目)について
- (3) 利用目的について
- (4) 利用者の種別について

3. 調査期間

昭和37年8月20日～12月20日

4. 調査方法

各体育館あるいは所管係に直接出向き、品川・足立・大田体育館は使用許可書の写しから、新宿体育館は使用者控帳、そして台東体育館は使用状況一覧表から、各項目について集計用紙に記入、まとめあげた。

5. 調査結果の処理

調査結果の処理については、とくに使用時間に注目し、下記(a)～(g)に示す利用率(以下、利用率という)を使用した。

- (a) 年間総使用時間/年間総開館時間 (%)
- (b) 月間一般使用時間/年間一般使用時間 (%)
- (c) 時刻別利用時間(6月)/月間使用時間 (%)

註4) 台東体育館は、建造は区であるが、管理運営は財団法人にまかされており、純粋の区営体育館とはいえないかもしれない。

間 (%)

- (d) 体育的行事・種目の利用時間/一般使用時間 (%)
- (e) 種目別利用時間/体育的行事・種目の一般使用時間 (%)
- (f) 目的別利用時間/体育的行事・種目の一般使用時間 (%)
- (g) 利用者別利用時間/体育的行事・種目の一般使用時間 (%)

III. 調査結果

1. 利用時間について

(1) 年間総使用時間と体育館利用率

昭和36年度1年間に利用された各体育館の総時間数と、その利用率は第2表のとおりである。表からわかるように、年間開館総時間に対する総使用時間の割合(利用率)は、最高の杉並高円寺体育館で68.6%、最低は足立体育館の41.32%であつて、まだまだ利用できる余裕を多く残している。

(2) 月別利用時間

年間利用時間を月別にみると第3表および第1図になる。全般的にみて、冬期の12月・1月および4月は利用が低く、3月・5月・6月・8月そして秋の10月・11月が多く利用されている。

(3) 利用時刻

1日を午前(8.00～12.00)、午後(12.00～5.00)、夜間(5.00～10.00)に分けて、いつ頃がいちばん利用されているかを6月を例にとつてみたのが第4表および第2図である。平均してみると午前17.9%、午後41.6%、夜間40.5%で、午後がもつとも利用されている。

2. 行事(種目)内容からみた利用状況

(1) 体育的な行事・種目と非体育的なものの割合について

使用された年間の総時間を、体育・スポーツ的なものと、展示会や催物などの非体育的な行事とに分類すると第5表になる。

体育館である以上、主に体育的活動のため

第2表 各体育館年間総使用時間と体育館利用率

昭和36年度

	新 宿	品 川	足 立	杉 並	大 田	台 東
一 般 使 用 時 間	時間 1,266.5	時間 2,194.0	時間 1,325.0	時間 2,939.0	時間 1,858.0	時間 2,456.0
一般公開(計画指導)*時間	756.0	450.0	450.0	0	0	304.0
総 使 用 時 間	2,022.5	2,644.0	1,775.0	2,939.0	1,858.0	2,660.0
開 館 総 時 間	4,228.0	4,128.0	4,296.0	4,284.0	4,260.0	5,026.0
開館総時間に対する総使用時間の割合(利用率)	47.84%	64.05%	41.32%	68.60%	43.62%	52.92%

* 註5

第3表 月別にみた利用時間数と利用率¹⁾

昭和36年度

月 体 育 館	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
新 宿 体育館	時間 168.5 (13.3)	134.5 (10.6)	119.5 (9.4)	88.5 (7.0)	141.0 (11.1)	103.0 (8.1)	149.0 (11.8)	136.5 (10.8)	80.5 (6.4)	32.0 (2.5)	49.0 (3.9)	64.5 (5.1)	1,266.5 (100.0)	105.5
品 川 体育館	163.5 (7.5)	244.0 (11.1)	185.0 (8.5)	188.5 (8.6)	188.0 (8.6)	181.0 (8.2)	189.5 (8.7)	161.0 (7.3)	164.5 (7.5)	154.5 (7.0)	167.5 (7.6)	207.0 (9.4)	2,194.0 (100.0)	182.8
足 立 体育館	73.0 (5.5)	103.0 (7.8)	114.0 (8.6)	126.5 (9.5)	131.0 (9.9)	83.5 (6.3)	118.0 (9.9)	125.5 (9.5)	110.5 (8.3)	72.5 (5.5)	94.0 (7.1)	173.5 (13.1)	1,325.0 (100.0)	110.5
杉 並 高円寺 体育館	246.0 (8.4)	291.0 (9.9)	336.0 (11.4)	254.0 (8.6)	300.0 (10.2)	207.0 (7.1)	240.0 (8.2)	254.0 (8.6)	199.0 (6.8)	164.0 (5.6)	186.0 (6.3)	262.0 (8.9)	2,939.0 (100.0)	244.9
大 田 梅屋敷 体育館	84.0 (4.5)	155.5 (8.4)	131.0 (7.1)	132.5 (7.1)	142.0 (7.6)	176.0 (9.5)	206.5 (11.1)	183.0 (9.9)	119.0 (6.4)	127.0 (6.8)	182.0 (9.8)	219.5 (11.8)	1,858.0 (100.0)	154.8
台 東 体育館	132.0 (5.4)	180.0 (7.3)	180.0 (7.3)	188.0 (7.7)	192.0 (7.9)	184.0 (7.5)	300.0 (12.2)	312.0 (12.7)	176.0 (7.2)	108.0 (4.4)	272.0 (11.1)	232.0 (9.4)	2,456.0 (100.0)	204.7
計	867.0 (7.2)	1,108.0 (9.2)	1,065.5 (8.9)	978.0 (8.1)	1,094.0 (9.1)	934.5 (7.8)	1,203.0 (10.0)	1,172.0 (9.7)	849.5 (7.0)	658.0 (5.5)	950.5 (7.9)	1,158.5 (9.6)	12,038.5 (100.0)	1,003.2
平均	144.5	184.7	177.6	163.0	182.3	155.7	200.5	195.3	141.6	109.7	158.4	193.1	2,006.4 (100.0)	

1) 各行の上段は月別延利用時間数を、下段は年間利用時間に対する月別利用率を示す。

註5) 一般公開(計画指導)とは、一定の日に体育館を解放し、自由にあるいは指導者のもと好きな運動を行なえるもの。品川・足立は毎週水曜日をこれに当てているが、台東は不定期で大休月に2~3回程度である。
新宿の場合は計画指導といい、月~金の毎夕6時から9時まで、曜日ごとに決まっている種目について指導するものである。

第1図 各体育館月別利用時間

第2図 6月における各体育館の利用時刻

第4表 時刻別にみた6月の利用状況

	午前 (8.00* (12.00)	午後 (12.00 (5.00)	夜間 (5.00 (10.00)	(6月包 用時間 合計)
新宿体育館	時間 15.0 (%) (31.1)	時間 35.0 (%) (46.4)	**時間 84.5 (%) (45.5)	時間 134.5 (%) (100)
品川体育館	42.0 (22.7)	67.0 (36.2)	76.0 (41.1)	185.0 (100)
足立体育館	21.0 (18.4)	53.0 (46.5)	40.0 (35.1)	114.0 (100)
杉並高円寺体育館	83.0 (24.7)	154.0 (45.8)	99.0 (29.5)	336.0 (100)
大田梅屋敷体育館	9.0 (6.9)	31.0 (23.7)	91.0 (69.4)	131.0 (100)
台東体育館	32.0 (17.8)	60.0 (44.4)	68.0 (37.8)	160.0 (100)
全体(平均)	202.0 (17.9)	471.0 (41.6)	458.5 (40.5)	1,131.5 (100)

* 各欄の数字は6月中の午前中の使用時間の合計で、()内は6月使用時間合計に対するその割合である。以下、午後・夜間も同じ。

** 新宿の夜間84.5時間のうち、計画指導の時間は66.0時間である。

第5表 一般使用時間における体育的・非体育的利用時間の割合

	新宿	品川	足立	杉並	大田	台東
一般使用時間	1,266.5	2,194.0	1,325.0	2,939.0	1,858.0	2,456.0
体育的	1,083.5	2,086.5	947.5	2,905.0	1,858.0	740.0
非体育的	183.0	107.5	377.5	34.0	0	1,716.0
体育的利用時間率	85.6%	95.1%	71.5%	98.8%	100.0%	30.1%

に利用されるのが当然なことであろうが、台東体育館では全体のわずか30%しか体育的なものに利用されておらず、残る70%は催物・展示会・会合などについやされていることが注目される。

足立体育館28.5%，新宿体育館14.4%

が次いで他の行事に使われているが、両者とも設置目的の一つとして「文化の向上を図る」とあるように、区民の集いなどにも利用されているようである。

3. 体育的行事・種目の分析

(1) 運動種目について

第6表に使われた種目とその利用時間を示した。くわしい説明は省くが、新宿体育館にバスケットボールの使用が少ないのは、床面がデックス・オー・テックス仕上げのため公式試合が出来ないためと思われる。

(2) 利用した目的について

第6表 利用された運動種目一覧表及びその使用時間数と利用率

種 目	新宿体育館	品川体育館	足立体育館	杉並高円寺体育館	大田梅屋敷体育館	台東体育館
	時間 (%)	時間 (%)	時間 (%)	時間 (%)	時間 (%)	時間 (%)
バスケットボール	82.0 (7.6)	523.5 (25.1)	200.0 (21.1)	1,831.0 (63.1)		160.0 (21.6)
バレーボール	350.5 (32.3)	498.5 (23.9)	205.0 (21.6)	184.0 (6.3)		76.0 (10.3)
バドミントン	103.0 (9.5)	283.5 (13.6)	137.5 (14.5)	510.0 (17.6)	388.0 (20.9)	48.0 (6.5)
卓球	219.5 (20.3)	391.5 (18.8)	213.0 (22.5)	126.0 (4.3)	854.0 (46.0)	144.0 (19.5)
ハンドボール	54.0 (5.0)	47.0 (2.3)				32.0 (4.3)
テニス	21.5 (2.0)		3.0 (0.3)			
体操	132.0 (12.2)	46.0 (2.2)	90.5 (9.6)		21.0 (1.1)	12.0 (1.6)
フォークダンス	23.0 (2.1)	247.0 (11.8)	46.5 (4.9)	187.0 (6.4)	418.0 (22.5)	12.0 (1.6)
民踊(民謡含む)	48.0 (4.4)	27.0 (1.3)		52.0 (1.8)		104.0 (14.1)
学校ダンス		9.0 (0.4)				
柔道	13.0 (1.2)		4.0 (0.4)		33.0 (1.8)	8.0 (1.1)
剣道	19.0 (1.8)		15.0 (1.6)	5.0 (0.2)	114.0 (6.1)	
空手				5.0 (0.2)		
レスリング					3.5 (0.2)	60.0 (8.1)
ボクシング	4.0 (0.4)					
相撲					22.5 (1.2)	
水泳(講習会)			3.0 (0.3)			
幼児レクリエーション				5.0 (0.2)		
羽根つき					4.0 (0.2)	
運動会	14.0 (1.3)	13.5 (0.6)	30.0 (3.2)			84.0 (11.4)
計	1,083.5	2,086.5	947.5	2,905.0	1,858.0	740.0

第7表 体育的な利用における使用目的の分類とその使用時間数・利用率

	新宿体育館	品川体育館	足立体育館	杉並高円寺体育館	大田梅屋敷体育館	台東体育館
	時間 %	時間 %	時間 %	時間 %	時間 %	時間 %
試合	634.0 58.5	605.0 29.0	316.0 33.3	171.0 5.9	248.0 13.3	464.0 62.6
練習	149.5 13.8	1,156.0 55.4	492.5 52.0	2,411.0 83.0	1,147.5 61.8	16.0 2.2
講習会	212.0 19.6	43.0 2.1	12.0 1.3	22.0 0.8	38.5 2.1	0 0
レクリエーション	67.0 6.2	251.0 12.0	44.5 4.7	284.0 9.7	424.0 22.8	116.0 15.7
体育大会	21.0 1.9	22.5 1.1	37.5 4.0	0 0	0 0	84.0 11.4
授業	0 0	9.0 0.4	45.0 4.7	17.0 0.6	0 0	0 0
興業	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	60.0 8.1
計	1,083.5 100.0	2,086.5 100.0	947.5 100.0	2,905.0 100.0	1,858.0 100.0	740.0 100.0

利用目的をみることにより、現在の区営体育館がもっている機能の一面を知ることができる。そこで一般使用時間のうち、体育的活動に利用された時間を目的別に分類したのが第7表である。

表からわかるように、どこも試合と練習のための利用が圧倒的に多いが、体育館の規模や使用料金、また区の体育計画の活発さによって各々の内容は異なってくる。紙面の都合上、残念ながらこれら各項目ごとの説明は省略するが、比較的区民への体育計画が活発に実施されている新宿と大田では、「試合」の内容は、他区が特定の団体の試合が多いのに比

べて区民の大会がはるかに多いし、区民のための「講習会」も新宿では数多く行なわれているのが目立っている。

(3) 利用者の種別について

体育館がどのような人々に利用されているかを知ること、特に関心のもたれる点であろう。そこで、利用者を、学校(生徒)・大学(学生)・学生スポーツ団体(学連)・実業団スポーツ団体(実連)・一般人・全国的なスポーツ協会(区のスポーツ協会・連盟は次の「区」を含む)・区の7つに分類し、体育的行事・種目に利用された時間を各々に分け、第8表にそれぞれの利用時間数と利用率を示した。

第8表 体育的行事・種目の利用における利用者の種別とその利用時間数・利用率

	新 宿		品 川		足 立		大 田		台 東	
	時間	%	時間	%	時間	%	時間	%	時間	%
小・中・高 校 生	67.0	6.2	330.5	15.9	387.5	40.8	0	0	4.0	0.5
大 学 生	16.0	0.9	212.0	10.3	45.0	4.7	271.0	14.3	20.0	2.7
学生スポーツ連盟	70.5	6.5	62.0	2.7	46.0	4.9	0	0	128.0	17.3
一 般 団 体	319.5	29.8	1,035.0	49.6	363.5	38.4	1,055.0	56.9	328.0	44.4
実業団スポーツ連盟	72.0	6.6	82.0	3.9	22.5	2.4	0	0	64.0	8.6
ス ポ ー ツ 協 会	102.0	9.4	111.5	5.3	0	0	0	0	156.0	21.1
区	436.5	40.6	253.5	12.3	83.0	8.8	532.0	28.8	40.0	5.4
計	1,083.5	100.0	2,086.5	100.0	947.5	100.0	1,353.0	100.0	740.0	100.0

* 杉並高円寺体育館は、許可書に代表者の氏名だけが記入していない場合が多く、分類できないため除外した。しかし、管理者の話によると、半分以上は生徒のクラブ活動の使用であるとのことである。

これについても具体的な検討は省くが、表を一見すると、一般の使用が多く、地域の人々によく活用されているように思われるが、実際には、その多くは会社や官公署、民間団体等の貸切りの使用であつて、決して、地域の人々が気軽に体育活動の場として利用しているのではないことに注意する必要がある。

IV. 考 察

以上、都内にある区営体育館について、昭和36年度の利用状況を調べてみたが、これによつて、現在の区営体育館のもっているいく

つかの問題点が明らかになったことと思う。

以下特に重視すべき問題点をまとめ、若干の考察を加えたい。

1. 体育館利用率について

年間の総開館時間に対する総使用時間の割合(利用率)は、第2表に示すように全般的に低く(平均53.1%)、体育館のもっている時間的な機能が十分に発揮されていないことがわかつた。この原因としては、体育館の位置、PR不足、使用料その他に問題があるのだろうが、商業的体育施設の現況と比較すると、多分に工夫の余地があるように思われる。

月によつて利用率に差のあること、また一日における午前中の利用の少ないことなどから、季節によつてそれに適する催物を計画したり、家庭の主婦や幼児を対象とした午前中のプログラムを計画することにより、さらに有効に利用させることが可能であろう。

2. 利用内容について

まづ利用内容を、体育的行事・種目の利用と、非体育的な利用とに分けてみたが、台東体育館だけが非体育的なものに70%も利用されていることが注目される。体育館としての機能は発揮されているとはいえず、むしろ文化活動の場としての機能を果たしている現状といえる。各種文化施設の完備されていないわが国の現状では、たしかにある程度の公民館的な性格を含むことは仕方ないかもしれないが、本末転倒になつてはならないだろう。

次に、上記の体育的行事・種目に利用された内容を分析してみたが、ここにもいくつかの問題点が挙げられよう。

利用された運動種目については別にこれということはないが、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントンの4種目が大部分なのはいくらか単純なように思われ、さらに多彩な利用の道が考えられるように思う。

次いで、利用の目的についてだが、どの体育館も大体70%以上が「試合」と「練習」の目的で使われている。だが、その内容をみると、「練習」のほとんどは学校や会社の運動クラブの練習であり、社会の一般人からみれば、やはり体力や技術などの点も一般人よりかすぐれた、特定の人達にしまわれている現状であるといえる。また「試合」の中の区民大会とて、参加できるのは選ばれた人々であろうし、すべての人が自由に利用できる性質のものではない。したがつて、広く地域の一般人が気軽に利用するという点からみれば、なお望ましい在り方からはへだたりがあるということが、これからも察することが出来る

であろう。

利用の目的からいえば、やはり、区民のための各種の講習会がひんぱんに行なわれたり、地域の一般の人々がレクリエーション的な気持ちで、心身の疲労回復や健康の増進をはかつたりするために、気軽に利用されるようになることが望ましいであろう。

3. 利用者について

区営体育館は、設置目的からいつでも区民を対象として存在しているわけだが、区民以外の使用を禁じているのは、杉並・大田両区だけであり、他区の体育館では区民以外の人々にも窓口を開けている。(もつとも、大田では規則で禁じているだけで、実際には他区の人々にも許可しているという係の話である。

また、新宿の場合は、区民がグループ単位で使用するときには無料だが、誰でも一般貸切の料金を払うと借りることができる。) 都内23区中、わづか6区しか区営の体育館を有していない現状では、区民だけの使用に限る方がよいとはいちがいにいえないだろう。

さて、利用者を分類してみたところ、各体育館ともいろいろな人(団体)が利用していることがわかつた。しかし、ここではつきりといえることは、現状の体育館の利用はほとんど限られたグループによる利用であつて、地域の一般の人々の利用はきわめて少ないということである。これは、いうまでもなく体育館の運営方法が団体での使用を対象としているものであり、個人での利用はわづかに一般公開(計画指導)と講習会ぐらいの機会しかないことが、大きな原因となつていのである。

足立や品川にみられるように学生生徒の利用も多いが、いかに彼等が社会構成単位の一つであるとはいえ、授業や運動クラブの練習のためにその場所を公共体育館に求めるのは、学校体育施設の完備されていない現状からみればやもうえないかもしれないが、それ以上

に不十分な社会体育施設の実情を考えると、決して望ましいとはいえないだろう。

また、学生連盟、実業団連盟、スポーツ協会等の競技会場としての利用は、これらの団体に属さない一般の人々の活動に支障をきたさない範囲内において、許されてもよいのではないかと思われる。

4. 区営体育館の規模について

最後に区営体育館の規模について考えてみたい。第1表に各体育館の規模をのせておいたので大体理解できたと思うが、これら各体育館の規模と各々の利用状況との関係をみてみると、ここに注目すべき現象のあることがわかる。つまり、規模の小さい体育館ほど体育的行事・種目に利用される率の高い傾向を示し（大田・杉並では98%以上）、規模が大きくなるほど非体育的なものにも利用される率の高くなること、そしてまた利用内容も、大きな体育館ほど競技会場としての性格を示しているということである。

以上のことから、区営体育館の規模としては、体育館を気軽に利用できる体育活動の場としてのみ考えた場合、それほど大きなものは必要なさそうで、使用料や維持管理などの条件からみて、中学校程度の規模である杉並高円寺体育館くらいのものが、適当ではないかと思われるのである。規模が大きくなればなるほど維持管理の経費もかさみ、結局その経費の捻出のために使用料金も高くなり、一般の人々にとって使用上の大きな障害になるということも留意しておく必要があろう。

V. 結 び

社会体育の発展上、きわめて重要な役割を果たすと思われる区営体育館について、その利用状況を調べ若干の考察を加えてみたが、これにより現在の区営体育館の実態がある程度知りえたことと思う。

これらの結果と各体育館の運営方法とを合

せて考えてみると、現在の区営体育館は新宿以外はみな貸体育館的存在であつて、地域の人々にとっては気軽に利用することは難かしく、その設置目的達成への配慮も不十分で、せつかくの施設も本来の機能を発揮しきつていない現状といえる。昭和38年2月の内閣総理大臣官房広報室による「スポーツに関する世論調査報告書」においても、スポーツを行なう場所として公共の施設の利用は少ないことを述べているが、これらの原因は、施設の絶対数も少ないのだが、その運営方法に大きな問題があるように思われるのである。

ともあれ、地域の人々がいつでも体育館に出向けば、容易に利用することができ、心身の疲労回復や健康の増進のために貢献するように活用されてこそ、真の区営体育館の在り方だと思うが、今回の調査から現在の運営方法などを深く反省し、改善の必要があるものと感じるのである。

また、都内でわづか6区しか区営の体育館をもっていないが、これは各区の公会堂、公民館などの設置状況に比して、体育館の普及が遅れていることを物語るものであり、すべての区がいくつかづつの体育館をもつことができれば、社会体育の振興は一層の発展をみせることができるであろうと考えるのである。

最後に、この調査報告にあたり、いろいろと御指導下さった東京大学教育学部水野忠文、江橋慎四郎先生に深く感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 文部省・日本体育協会 (1958): 社会体育施設報告書.
- 2) 国民体育館運営審議会 (1955): 「わが国における公共体育館の現状」, 体育の科学, 11月号.
- 3) 竹之下休蔵 (1955): 「公共体育館はどのように利用されているか」, 体育の科学, 12月号.
- 4) 日本体育学会 (1961): 保健体育学講座, 第V巻, p. 276~p. 307.
- 5) 内閣総理大臣官房広報室 (1963): スポーツに関する世論調査報告書.

A Survey on Utilization of Ward Gymnasia

By

S. Masa; Nihon College of Physical Education

The purpose of this study was to obtain some basic informations regarding present status of ward gymnasia in Tokyo in order to facilitate the program for community physical education.

Size of gymnasia, total number of open-hours per year, percentage of hours used per month and year, objectives of utilization, and classification of activities were studied for the fiscal year of 1961.

The results are summarized as follows:

- (1) Ratio of utilization was 53.1%; the figure shows possibility of considerable additional use.
- (2) Generally, smaller gymnasia showed higher utilization for athletic events, while larger ones for those other than athletic nature.
- (3) In the use of athletic events, about 70% of the total hours were for the preparatory trainings towards the respective competitions ahead.
- (4) College students, high school students and employees of medium and larger companies represented the majority of participants, with far less participation on the part of community members.

The results serve as an indication of the fact that the management procedures of the present ward gymnasia should be improved.

A Study on Timing in Sensory-Motor Performance, viewed from the Developmental Stages.

By

K. Takano; Nara women's University

H. Fujiyoshi; Tenri University

Summary: From the view-point of developmental stages the timing-error in striking a moving mark was observed among ten boys and girls each from the second-grade to fifth-grade as the subjects of this study.

- 1) No grade wise differences both in C.E. (Constant Error) and V.E. (Variable Error) were found when the response-records were not reported to the subjects.